

## step.4 商品の提案

いちごの復興は山元町の復興。自分たちの想いをかたちにし、それを販売することで全国にその想いを届けたい。ただ商品を売るだけではない、「想い」のこもったプロジェクトがスタート。利用者の描いたいちごやりんごの絵を使った商品をつくり、県内だけでなく全国へ向けて販売。統一感のあるデザイン(ブランディング)により、ストーリーが伝わりやすくなっている。



### Staff comment

工房地球村 スタッフ 小泉大輔さん

震災後、メンバーが集う場としていち早く再出発を果たした地球村ですが、地域の状況が一変し、先の見通しが立たない状況のなかで、新たな仕事を考える余裕はありませんでした。しかし、9月のアートワークショップからその状況は徐々に変化してきました。メンバーたちが、壊滅的被害にあった山元町の特産品いちごや、放射能問題で出荷できないりんごの絵を描く姿、特に集団活動が苦手なメンバーが照れながらも笑顔で自分の作品と写真におさまる様子を見てとても驚きました。スタートから4年、地球村ではアートを通じて互いに表現し、認めあう空間がはぐくまれていると感じます。いちごものがたりプロジェクトがすばらしい成果をあげ、メンバーも自信を持ち、いきいきと自己表現するようになりました。職員も「新たな仕事をつくる」「山元町をアピールする商品をつくる」という課題を具現化できた手ごたえを感じています。今後も、地域に貢献すると同時に、仕事を充実させて工賃もアップさせるという目標に向かい、メンバー、職員一丸となって取り組みづけていきたいと思います。

### 施設 DATA

社会福祉法人山元町社会福祉協議会 山元町共同作業所 工房地球村  
住所：宮城県亘理郡山元町真庭字名生東75-7 電話：0223-37-0205  
URL：<http://kobo-chikyumura.com>

## 工房地球村 × GoodJob! 東北プロジェクト

### step.1 課題を探る

困っていることは何ですか？

震災の被害により清掃などの仕事が激減。地元の特産品であるいちごも壊滅的な被害を受け、施設の看板商品であったいちごジャムの製造も難しくなった。利用者やスタッフ、地域住民の心身や生活のケアが急務の状態で、新しい仕事をつくるクリエイティブな発想が生まれない。地域全体に活気がなくなっている。

### 仕事がなくなってしまった

### step.2 目的を整理

課題について整理してみましょう。

新しい仕事をつくり、利用者がいきいきと働くことで地域(山元町)を元気にしたい。山元町をアピールする商品をつくり、全国の人たちに自分たちのことを知ってほしい。また、支援してくださる人たちへのお返しの気持ちを伝えたい。

### 地域(山元町)を元気にする仕事づくり

### step.3 実践する

課題を解決するために何をしたらいいか考えましょう。

地元の特産品いちごの復興と、町の復興へかける願いを重ね、いちごものがたりというブランドを立ちあげる。利用者が描く山元町ゆかりのモチーフを元に、それまで施設でつくっていた商品も含めデザインをリニューアルし、全体の統一感を図る。また、アート活動や販売活動をとおして利用者がいきいきと働ける環境づくりをすすめ、地域の人たちと自然につながる場をつくる。

### 「想い」をかたちにするブランドづくり